

小 学 校 中 ・ 高 学 年	テーマ	いじめ防止教育・さわやかな自己主張・ストレスの対処法 防災教育と災害後の心のケア		
	ねらい	いじめとけんかの違い、いじめによる心と身体の変化、不快な場面での言い方、いじめをしないための意識、いじめを見たり聞いたりしたときの対処を学ぶ。 人による行為に対しては未然に防ぐ対策を、また自然災害に対しては、その被害を最小限に食い止める知恵を学ぶ。また、被災後の心のケアについて知る。		
	指導のポイント	事前	学習・体験	事後
	<p>【感動の体験】 一見、いじめに見えないごっこ遊びや特訓、親切に見える友だちへの注意等に潜む悪意がいじめであることに気づかせる。 被災者や被害者の手記等をとおして、災害や犯罪の恐ろしさや、それを切り抜けた勇気について学ばせる。 リラックス法を身につけることで、怒りや悲しみといったストレスが変化することを実感させる。</p> <p>【感性を育む】 ロールプレイングの体験をとおして、相手を傷つけないで、自分の考えを伝える表現方法を身につけさせる。 震災を経験した人の手記等をとおして、危機に直面した時に落ち着いて行動しようとする姿勢を身につけさせる。</p> <p>【想像力の育成】 いじめとけんかの違いを理解させ、いじめを決して許さないという気持ちを育む。 災害や犯罪にあった後の心身の変化や、うわさや傷つける言葉等の二次被害があることを知らせる。 人を支える心の絆の大切さを実感させる。</p>	<p>【先生の準備】 ・ 子どもの交友関係をよく把握しておき、個別指導を充実させる。 ・ 自然災害の写真や、子どもに関する犯罪情報を集めておく。</p> <p>【教育課程上の位置づけ】 ・ 道徳 ・ 特別活動 ・ 総合的な学習の時間</p> <p>【子どもたちの準備】 ・ いままでの「いじめた体験」や「いじめられた体験」を振り返る。</p> <p>【家庭・地域との連携】 ・ いじめ防止の保護者研修会を開く。 ・ 学級通信等で学級や子どもの様子を日常的に知らせる。</p>	<p>【 】 いじめへの対処 ・ 学校生活を振り返り、いじめ、けんか、特訓、遊びの違いを明らかにする。 ・ いじめを見抜き、なくす方法を考える。 ・ いじめにあったり、いじめを見たときの対処をロールプレイングによって学ぶ。 絵本による学習 ・ 『わたしのせいじゃない』（岩崎書店） ビデオ学習 ・ 『大切ないのちシリーズ・大切ないのちといじめ』（アーニー出版） ストレスへの対処 ・ ストレスとは何かを知る。 ・ ストレスによって起こる様々な体や心の反応について知り、対処法を学ぶ。 『学校のストレスマネジメント研究』（県立教育研修所心の教育総合センター） アサーション・トレーニングの体験 ・ 不快な気持ちが湧いた時の適切な言い方をロールプレイングによって体験する。</p> <p>【 】 防災と被災後の心のケア ・ 被災者や被害者の手記等を読む。 ・ 自然災害や不審者に対して自分自身でできる具体的行動を考える。 ・ 災害や被害にあった後の心の変化について知る。 ・ うわさや傷つける言葉等について知る。 『明日に生きる』、『学校防災マニュアル（改訂版）』（兵庫県教委）の活用 紙芝居・絵本等による学習 ・ 『かばくんの気もち』（兵庫教育大学富永良喜研究室 http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/yotomi/kabakun.pdf)</p>	<p>【子どもたちの予想される心の動き】 ・ 悪意があれば、遊びに見えても、いじめなんだ。 ・ いじめは自分の心の問題だから、自分で分かるはずなんだ。 ・ いじめは決して許してはいけないんだ。 ・ 自分の命は自分で守るんだ。 ・ 私ができることは だ。</p> <p>【振り返りカードへの記入】 ・ 学習・体験の後に、子どもたちに自分の心の動きを振り返らせ、振り返りカードに記入させる。 ・ 授業から一か月後に、いじめ被害・加害調査を実施し、取組の効果を検証する。</p> <p>【日常生活での実践・家庭との連携】 ・ 学習内容と子どもの反応を通信や保護者会の場等で伝える。 ・ 相談・アドバイスができる家族関係をつくる。 ・ 防災グッズを準備する。 ・ 非常時の連絡方法・集合場所等を家族で決めておく。</p> <p>【先生の振り返り】 ・ いじめを見抜く力や、いじめをなくそうとする意欲を養うことができたか。 ・ 日常生活の中で、危機意識をもたせ、その対処について考えさせることができたか。</p>